

Peace21

## 佃 由紀子

洋服を着る楽しさを諦めざるをえない人々がいる。その原因は、現代社会に幾重にも走る、多数派と少数派を分かち溝。多数派も少数派も等しく楽しめるユニバーサルファッションは、その架け橋になれるのか。

# おしゃれで機能的 衣服の可能性を 全ての人の手元へ

他者には見えづらい  
 当事者だけの不自由

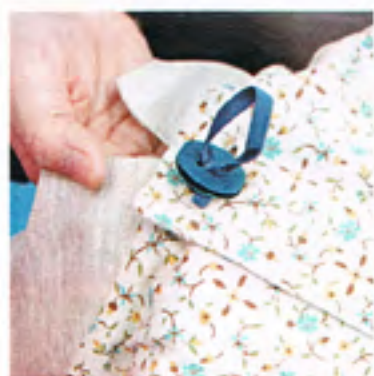
「『こんな洋服が欲しい』と思ったとき、物理的に着られる服が限られる片麻痺の方や義手義足の方の場合、どんな選択肢があるでしょうか」  
 そう語るのは佃由紀子氏。

衣服のリフォームを経て、

障害者が着られる衣料が既存アパレルのマーケティン  
 グから見落とされていると  
 痛感した佃氏は、2010  
 年5月、Peace21を設  
 立し、ユニバーサルファッ  
 ション（以下UF）やグッズ  
 の開発・販売事業に着手して

いる。

「例えば半身不随の人が一  
 人でも着られる服。身障者の  
 人々は社会に対して疎外感を  
 抱くことも多く、これは障害  
 が重度になればなるほど顕著  
 になります。常に誰かの手を  
 借りなければ生活できないの  
 で、自己選択が他者への負担



つくだ・ゆきこ

1964年東京都生まれ、86年玉川大  
 学卒業。既製服を楽しめない障害者  
 や高齢者の存在を知り、2010年5月、  
 Peace21を設立しユニバーサルファッ  
 ションの開発・販売事業を開始する。  
 商品はネット上のセレクトショップ  
 「紅糸橋」で販売している。



## 質問1 起業するうえでもっとも大切なモノ(コト)は何だと思いますか?

実現したい世界観があること

になると考えてしまうからです。UFはその疎外感を取り払うための一歩になります」  
 研究開発している衣服を見せてもらった。すっきりとしたシルエットのポロシャツは、袖ぐりを広げると倍近く伸びる。これによって肘の関節が動かない人でも楽に袖を通すことができる。あるブルゾンにはファスナーの留め具の横に2つのリングがついている。



肩ぐりが伸びるポロシャツ(右上)、片麻痺など、手先を器用に使えない人のために工夫したファスナー(右下)。機能性はもちろん、衣服のデザインや風合いも重視している。写真は車椅子の人のための訪問室(左)

片麻痺患者は手先を器用に動かさせないためファスナーを使うのは難しいが、このリングに親指を通すことで留め具が固定され簡単に噛みあわせられる。共通するのは機能のためにファッショニヤク性を犠牲にしていない点だ。

「着脱や洗濯の容易さが優先されるため、被介護者や障害者の人々が身に付ける衣服はジャージやトレーナーなどはファッショニヤク性からは程遠い物でした。しかし障害者の方々も病気をする前は好きな服を着ていたはずなんです。選択の自由が広がることで明るい気持ちでリハビリや生活に向かえるようになります」

さらに佃氏は「よくある誤解は、UFは障害者向けの衣服と捉えられること」と語る。UFの理念は全ての人が双方方向に便利で幸福な生活を送るといふもの。たしかに社会的に健常者の道具と障害者の道具を無意識に区別してしまふ精神的な溝は存在する。

「ある女性は半身麻痺になつてから、プティックの店員が自分を客として捉えなくなつたと語りました。UFの認知度がより高まればこうした溝もなくなっていきます」  
 障害者への福祉事業はボランティア団体やNPOの領域であるという認識が一般的ではなく、UFの役割、例えば衣類の着脱は、製品の機能ではなく、ボランティアなどの人手に担われていた。しかし佃氏は、ビジネスとして行うことに意味があるという。

「永続的なサービスのためには企業体が適しています。経験や知識が蓄積されていき、安定した技術提供の礎になりますし、目に見える形での責任が発生するからです」  
 事業として成立するかは、

## 質問2 あなたにとって仕事とは?

自己実現